

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600100		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家 藤橋		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町西横山橋場南436-2		
自己評価作成日	令和2年12月22日	評価結果市町村受理日	令和3年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192600100-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居数が9人という少人数の利点を活かし、利用者様お一人おひとりの個性を大切にしたいと支援に努めています。家庭的な雰囲気の中で一緒に家事をするなど、役割を持ってもらうことで利用者様同士も親しみやすく、安心した生活を送っていただいています。また、職員は定期的に研修会を行い、施設全体のケアの質を向上できるように取り組んでいます。利用者様の健康管理は主治医と24時間体制で連携し、看取りケアのニーズが高まる中、ご家族様との連携を密にしながら最期まで寄り添いながら精一杯の支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、新型コロナウイルス感染予防・感染拡大防止の為、様々な工夫をしながら支援に取り組んでいる。職員は、今まで以上に利用者一人ひとりの個性を大切に、好きな読書や趣味を楽しめるよう支援し、食事場所も利用者の希望を聞き、食堂だけでなく居室での食事提供など、工夫をしている。また、専門職によるリハビリ体操を充実させながら、身体機能の維持に努めている。年間研修計画を作成し、職員が順に研修テーマに沿って講師を担当する事で、職員全体の資質向上を図っている。重度化や終末期ケアについても、家族の協力を得ながら医療機関と連携し、より良い支援につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議にて運営理念の意味や利用者様がより良く過ごして頂けるように意見交換を行い、ケアの方向性の統一を確認している。また、常に確認できるよう、名札の裏や施設の見える所に掲示している。	職員一人ひとりが、日々、理念を確認し振り返りながら支援に取り組んでいる。個々の名札裏にも理念の掲示がある。日々の気づきも、速やかに職員間で意見交換し、利用者の立場に立った個別ケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は地域の行事(盆踊り、文化祭、運動会、いび川マラソン等)に参加する機会を多く得ている。今年は地域の行事は中止になってしまったため散歩中のあいさつなどで日常的な交流に努めている。	今までは、地域の様々な行事に参加し、地域の一員として交流を行っていた。コロナ禍の今、地域の行事もほぼ中止となっているが、事業所周辺の清掃活動や雪かきなど、できることを積極的に行っている。散歩中は、近隣住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について研修を行い、職員全体の理解の向上に努めている。また、運営推進会議で認知症について話す機会を設けたり、事例検討等を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の頻度で会議を開催しているが今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、書面で活動報告等を行っている。	隔月に開催していた運営推進会議は、新型コロナ感染防止の為、文書で会議メンバーに報告を行い、意見を求めている。家族には、近況報告書として利用者の様子が分かる写真を付け、報告をしている。近隣には独居の高齢者も多く、緊急時の対応など話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町主催のケア会議や研修に積極的に参加し、新しい情報を取得してケアの向上に活かせるよう努めている。今年度はコロナウイルス感染予防の研修会に参加して連携を図っている。	日々、町担当者から新型コロナ関連の情報がメールで届いており、ホーム全体で感染予防に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症予防の研修会にも参加し、行政と連携しながら感染予防に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束についての研修を行い、基本的理解や介護員としての責務等の理解を深めている。また、緊急やむを得ない場合は利用者様または家族様に十分に説明を行う必要があるなど正しい理解を深めている。	身体拘束適正化委員会を定期的開催している。年間研修計画を作成し、拘束や虐待について事例を挙げながら、研修を重ねている。言葉の拘束についても話し合っている。ケアの際には、利用者にも具体的に分かりやすく伝えながら、常に思いを聞く姿勢で向き合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスを溜めないよう管理者は常に職員の精神面に気を付けている。悩み等を気軽に話し合える雰囲気作りに努め、虐待の防止をしている。また、研修にて事例検討を行い、意見交換を大切にしている。		

グループホームぬくもりの家 藤橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネージャーが中心になり研修を行い、職員全員で学ぶ機会や、外部の研修にも積極的に参加して知識を高めている。利用者様や家族様の相談に応じ、適切に活用を勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて文章の読み合わせを行い、理解、納得して頂いているか十分に確認し説明を行っている。また、疑問点はいつでも連絡して頂くよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や担当者会議でご家族の意見や気持ちを聴いている。利用者様とは日々の関わりの中で話す機会が多いため、意見や要望を支援に取入れやすい。それを全体会議等で共有している。	職員は、日々のケアの中で利用者の思いを聴き、家族には、健康状態や往診結果、食事の摂取状況等を利用者の写真付きの「近況報告書」を送付している。コロナ禍の今は、家族との面談も難しい状況であるが、電話などで意見や要望を聞き、定期的に請求書と共に、利用者のスナップ写真も送っている。	感染予防の為、家族との面会を自粛している。家族からの要望もあることから、近況報告書の回数を増やしたり、文字や絵などが書ける利用者には、ひと言でも本人に書いてもらうなど、家族の安心につながる工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員から日頃の気づきや提案相談に耳を傾け、管理者会議に議題として報告を行い、意見交換をしている。また、決定事項や改善点を全体会議で伝え、職員の向上につなげている。	同法人の事業所間で職員交流を行い、働きやすい職場環境を自分たちで作り上げている。管理者も日常的に現場に入り、職員の意見や要望を聞いている。施設長も事業所を巡回し、法人全体の職員体制を考慮しながら、個々の意見や要望を把握し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの心を大切に、経験や性格、考え方等を取り込み、日々やりがいのある仕事ができるよう役割分担をしている。子育て中や定年した職員が無理のないよう勤務時間や希望休にも配慮し、より良い職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各施設研修や4施設合同研修などに、職員各自が向上心を持ってスキルアップできるよう積極的に参加してもらい、もっと学びたい事などアンケートをとり、深く学べる研修の場を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が外部の研修や会議、交流会等に積極的に参加し、同業者と意見交換を行い、質の向上につながるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で現在の悩みや困っている事、要望等を伺い入居後安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で時間にゆとりを持ち、今までのケアの経過や心配事、悩み等を伺っている。また、様々な要望にお応えできるように、話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様、利用者様のお話を傾聴する段階で、その中に含まれている不安や要望などを感じ取り、それを満たせる支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	挨拶や会話、行動の中から利用者様の好む事、安らぐ事などを感じ取り、それを取り入れた支援に努めている。一緒に家事をしたり季節の花植え、草取りなどを楽しんで頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に日常の様子を詳しく伝え、利用者様とスムーズに関われるよう努めている。また、家族様からの情報を取り込んだ支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年は感染症予防から会う機会が減っているが、手紙や電話等を利用して関係維持に努めている。また、同郷の方の入所もあり、昔話を一緒に楽しんだりしている。	新型コロナ感染防止の為、訪問者の受け入れを自粛しているが、利用者は、庭先で近隣の人に会ったり、窓越しに住民の往来を眺めている。利用者と職員は、元々、地元出身者が多く、互いに相通じる思い出話や地域の行事について話しながら、馴染みの人や場所への記憶をつないでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯たたみや新聞折り等の軽作業を取組んだり、食事やお茶を少人数で楽しんでいたが、孤立しないように利用者様同士関わり合いながら生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も事業所、ケアマネと情報交換している。また、いつでも相談にのれるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の要望(事前に意向書を記入していただく)を担当者会議で伺い作成している。また、認知症状で意向が把握できない利用者様の場合もあるため、職員が代弁したり皆で検討している。	入居前のアセスメントで把握した利用者情報を参考に、入浴時や排泄介助の際に、思いや意向を把握するよう心がけている。日常の会話の中でも、趣味や関心のありそうな話題に触れたり、その時々表情や言葉などを職員間で共有し、笑顔を引き出しながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活や暮らし方を伺い、習慣や性格を早く把握できるように努めている。また、関係者(主治医・他事業所・ご家族・近所の方)からも情報提供をしていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを定期的に見直して現状の把握に努めている。とくに健康状態・食事・睡眠等は介護記録簿とは別に一覧表にして毎日記録し、職員が把握しやすいように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を常に意識できるように介護記録簿に記載し、モニタリングも兼ることができるよう工夫をしている。担当者会議でご本人、ご家族、管理者などを交えて話し合い、現状のニーズに沿った計画書作成に努めている。	以前は、家族も参加しサービス担当者会議を行っていたが、コロナ禍の今は、事前に「介護についての要望書」を家族に送り、意見や要望を受け、電話等で確認している。サービス計画書や実施記録簿を参考に、モニタリングを行いながら関係者で話し合い、利用者と家族の意向を取り入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子や心身状態は、介護日誌・体調管理表に記録し、情報を共有している。また、毎日ケアプランの目標がなされているか確認している。特記事項は共通の連絡表に記入して迅速な情報把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地元の人々の利用が多いため、近所にある自宅や畑を見に行ったり、行事の参加ができるよう支援したりしてその時のニーズに合わせてできるだけ柔軟に対応している。		

グループホームぬくもりの家 藤橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(喫茶店・スーパー・病院等)を考えてそれらを利用したり、散歩時など地域の方々とふれあう事で笑顔が多く安心して暮らして頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医の希望を大切に支援している。かかりつけ医の変更時には、協力医と継続医との連携をとり、適切な医療が受けられるよう努めている。体調変化の時には様子を報告して連携をとり、病気の早期発見につなげている。	入居時に、かかりつけ医について説明し、利用者と家族が選択している。協力医による定期的な訪問があり、法人内の看護師は利用者の日々の健康管理に努めている。緊急時にも、利用者が適切な医療を受けられるよう、事業所と医療機関で連携しながら支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日常の様子や気になる事を報告し、利用者様の健康管理を一緒に行っている。また、往診時には看護師も必ず立ち会い、医師の指示を受けて連携を大切にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医と連携をとり、医療機関との協働(地域医療)をしている。入院時にはより適切な治療を受けられよう情報を大切にしている。(介護サマリー等)退院時には家族様の思いを大切に、病院、協力医、施設看護師とカンファレンスをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針について、契約時に利用者様や家族様に十分に説明を行い同意を得ている。早い段階で医師と関係者が話し合い、できる限り希望に沿った支援を行い、家族様との絆を大切にしている。	契約時に、重度化や終末期の支援について、事業所の方針を説明し、本人・家族の同意を得ている。状態に変化があった場合は、早い段階で、医師を含めて話し合い、方針を決定し共有している。看取りを希望する家族も増え、思いに寄り添いながら、職員は研修を重ね、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様のリスク等を常に念頭に置き、すぐ対応できるようマニュアルを作ったり、研修にて初期対応の大切さの訓練を行っている。特にヒヤリハット報告には十分に意見交換を行い実践につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災用品を揃えたり、職員の連絡網を提示したり水害等も含めたマニュアルを作成して訓練している。また、定期的に消防署立ち会いのもと防災訓練を行い、リスク等の確認をしながら意識を高めている。	年2回、夜間想定を含めた防災訓練に取り組んでいる。地震や水害についても対応マニュアルを作成している。現在は、地域の防災訓練は中止となっているが、近隣と常に話し合いながら、防災意識を高め、備蓄も1週間分を完備し、定期的に点検している。	地震発生後の火災を想定した訓練等も実施している。新型コロナ収束後には、地域住民と共に、様々な想定の下での防災訓練にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の中でも排泄時や入浴、着替えの時は特にプライバシーに留意しながら介助を行っている。言葉使いに気をつけて、利用者様が安心できるように対応している。	年間研修計画を作成し、職員が講師を担当して運営理念や法令遵守、接遇、適切なケア方法を学んでいる。常に利用者一人ひとりを尊重し、個別支援時には、特にプライバシーに配慮しながら、利用者本位の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを支援前に確認するように努めている。できる事はしてもらい、時には介助をして一緒に取り組み、生活ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にして、食事や睡眠時間を考慮したり活動の自己決定を促している。趣味があればそれを楽しんでいただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日を楽しく過ごせるように、朝は一緒に洋服を選び、身だしなみのお手伝いもさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえの手伝いをさせていただき、一緒に料理できるものはしていただいている。各利用者様の嚥下状態に合わせた調理や季節に合わせた料理を提供し、食事が楽しい時間となるよう努めている。	地域住民から差し入れられた野菜等も活用し、手作りの食事を提供している。朝は御飯かパンを選択することもできる。利用者もできることに関わり、おやつなども共に作って楽しんでいる。現在は、食堂内でも、カウンターやテーブルに別れたり、部屋食も支援するなど、感染防止に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスと季節に合った調理をし、水分も取れるような工夫と声かけをして、一日の摂取量を確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声かけを個々に行い、ご自分でできない方は介助のもとケアを行っている。		

グループホームぬくもりの家 藤橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2階は居室にトイレ、洗面所があるため排泄の自立が維持しやすい。排泄パターンを把握し、声かけをしてトイレ誘導をしている。入居前と変わらぬ排泄習慣を継続できるように努めている。	2階の居室にはトイレがあり、自立排泄ができる利用者も多い。職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼夜共、声掛けと誘導でトイレでの排泄を維持できるよう支援している。また、排泄後は、後始末ができていないか、さりげなく確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄と水分や食事の摂取量、運動ができていないかどうかを職員同士で確認し、体調不良につながらないよう気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個浴で対応し、ゆっくり入っていただいている。職員との会話を楽しみながら安全に支援している。決まった曜日に入れなければ個別に別日で対応している。	入浴は週2回であるが、利用者の希望や体調に合わせ、柔軟に対応している。入浴拒否がある場合には、日程を変更して声かけするなど工夫している。浴槽は介助しやすいよう少し大きめに作られており、重度者の場合は、職員2名で安心安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に着替えのお手伝いと排泄介入をして、安心して休んでいただけるよう支援している。就寝時間は個々の生活リズムに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している内容を職員全体が把握し、状況に変化があれば主治医に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみやタンスの中の整理などを職員と楽しく談笑しながら手伝っていただいている。ベランダや外のベンチで景色を眺めながらお茶を楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止のため外出はできないが、園庭を散歩したり、外で季節を感じながらコーヒータムを楽しんだりしていただいている。	今までは、地域行事の「いびがわマラソン」の応援や道の駅での外食など、外出の機会を多く企画していた。コロナ禍の今は、感染リスクのある外出を自粛し、事業所の広い庭で、日光浴や散策、お茶を楽しんだり、職員が工夫したレクリエーションで利用者の気分転換を図っている。	

グループホームぬくもりの家 藤橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方は、職員の確認のもとお金を所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状等が届いた場合は、ご本人が返信できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居心地よく生活できるように、ソファやテーブルセットをいくつか配置している。また、デッキにベンチを置き、外を楽しめるようにしている。館内は季節を感じる装飾、間接照明を取入れやすらげる空間を作りに努めている。	今年度は、ZOOMによるリモート調査で、確認することとなった。共用空間は、柔らかい間接照明により、さらに木のぬくもりが感じられ、色とりどりの季節の花を飾り、家庭的な雰囲気である。利用者の作品を飾っている廊下は、福祉用具が必要な利用者も、安全に行き来ができる広さがある。ウッドデッキにはベンチがあり、ゆっくりと外の景色を眺めながら寛ぐことができ、2階居室の利用者は、エレベーターで安全に移動ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで仲の良い利用者様同士が楽しく談笑できるようソファや椅子をいくつか用意しつろいでいただいている。それぞれの定位置のようなものもでき、安心感も感じていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から持ってこられた物をご自分の好きな所に飾り、安心して生活できる空間を作れるよう支援している。	各居室に洗面台、木製の机が設置されている。居室は利用者の大切なプライベート空間と捉え、机の前に座って読書をしたり、趣味の時間を過ごせるよう配慮し、自宅で暮らしているような居心地よい部屋作りをしている。コロナ禍にある為、居室で食事をする利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレなどに手すりを取り付け、段差のないバリアフリーとなっている。1階、2階の移動にはエレベーターを使用し安全に気をつけている。		